

短歌

串間短歌会選

◆ 熟れ過ぎしとげなきさまの苦瓜は身のうち晒す夕陽の色に

上中園 鍋倉文子

◆ 夏の日の暮れ初む空の深き青置き去るやうに時は過ぎゆく

堂園 吉田良子

◆ しその葉を一枚一枚摘みて知る母のなしたる手間を思へり

西浜 河野ヨシ子

◆ 平坦とは決して言へざる一世なりし兄の面影いつも穏やか

霧島 清水しづ子

◆ 子ふたりと吾の立場を歲月は知らず知らずに逆さにしゆく

飢肥 山脇恵乙子

俳句

あさひ俳句会選

◆ 金銀花危険な男の香りして

越ヶ谷 白石方子

◆ 蝸や哀しき思い出志布志線

春日 水元栄子

◆ 法師蝉きょうは軀で引かれ行く

上小路 本田ハズエ

◆ 子も孫も遠くにありて天の川

上町一 又木順子

◆ 原発禍三歳の梅雨も終まらず

八ヶ谷 川崎永伯



福島港より臨む
夏の夕焼け

*短歌・俳句の投稿は

- 短歌 野辺 俊子さん(TEL.72-3300)
- 俳句 本田 幾男さん(TEL.72-5280)



地球環境保護のために、大豆油インクを使用しています。

